

長年の支援に心から感謝

国鉄闘争解決記念感謝の集い



No. 2622
2012年3月15日
発行責任者 大沼 元
編集責任者 武田 昌仙

労仙台闘争団・国労福島県闘争本部解散 国鉄闘争終結感謝の集い



仙台闘争団のみなさん。この旗も見納めとなった

労働者は団結が全て

国労仙台闘争団と国労福島県闘争本部は、同組織の解散に伴い2月17日、ホテルプリシード郡山において、「国鉄闘争終結感謝の集い」を開催した。会場には共闘組織を始めとして百を超える方々が足を運び、長年の闘いの労をお互いにねぎらい、また終結を心から喜びあった。

開会の挨拶に立った、国労福島県闘争本部の小檜山 台闘争団の高橋団長は、本部長は、「春は名のみの風の寒さや」と早春賦の歌詞の一節を紹介し、春（解決）を待ちわびるもの的心情を25年間の闘いに重ね紹介した後、これまでの経過に触れた。【別掲】

また主催者を代表して仙台闘争団の高橋団長は、「長い間、多くの皆さんに支えられて本日の解散を迎えることが出来た。闘いの過程では困難もあったが、一つにまとまった時に解決が成し遂げられた。労働者は団結が全てであり、学ん



最後に全員で国鉄労働組歌を合唱した

2月20日	バス夏期ダイヤ交渉
2月21日	団交（ダイヤ改正 申11号）
2月22日	共済担当者会議（福島県・郡工支部）
2月23日	団交（ダイヤ改正 申13・16号）
	申14・15・17号）
2月24日	共済担当者会議（宮城県支部）
2月25日	第39回アスベスト対策委員会
3月2日	共済担当者会議（仙総支部）
3月7日	団交（職場改善 申14・15・17号）
3月8日	団交（職場改善 申11・13・16号）

課題克服に向けた実践のとき

地方委員会開催

地方本部は2月18日、仙台市青葉区中央市民センターにおいて、第123回定期地方委員会を開催した。委員会では出席した委員の真摯な討論の結果、議案は全て承認され、当面する諸課題と12春闘勝利に向けた取組みの意思統一が図られた。

委員会は歌川副委員長の挨拶で開会し、議長には山田委員（岩沼駅連合）を選出した。地本を代表し、大沼委員長は、▼12春闘情勢と国労の具体的闘い▼人事

敬称略▼福島県平和フォーラム・竹中柳一▼社民党福島県連合・古川正浩 共産党福島県委員会・神山悦子（国労本部・眞子俊久）更に来賓の方々が全て紹介された。

小檜山本部長挨拶要旨

本物の団結があった
25年前の昨日2月16日、「新会社への採用通知はない」の一言で、多数の国労組合員が、国鉄を追われ清算事業団行きを宣告された。



（一）から闘争団・家族と国労組合員、支援する仲間、長い闘いが始まった。地方労働委員会における連戦連勝に、解雇の無

効を確信したが、地裁での逆転敗訴、最高裁敗訴などの挫折、そして組織の混乱もあった。それらの困難を乗り越えた団結の修復の末、闘争団・家族が待ち望んだ、本当の春がようやく訪れた。震災以降、「絆」「がんばろう」「あきらめない」というメディアの大合唱に違和感を感じた人も少なくないのでは。だが国鉄闘争の支援には、心が通い合う本物の絆、頑張りがあった。だからこそ最高裁3対2の敗訴にもあきらめることなく国を相手に和解を勝ち取れたと考える。

山田議長が退任、中島副委員長が閉会の挨拶をし、大沼委員長の団結頑張りとうで終了した。【※編集部より 委員の発言については別途国労せんだいに掲載する予定です】

当事者に解雇通告

飯山線事故

現場に不安の声

JR東日本新潟支社の飯山線における踏切通行車両と列車の衝突事故(左記参照)の責任者ら2人の社員に対し、JR東日本は解雇発令を行なったことが関係者の話で明らかになった。

JR東日本新潟支社の飯山線における踏切通行車両と列車の衝突事故(左記参照)の責任者ら2人の社員に対し、JR東日本は解雇発令を行なったことが関係者の話で明らかになった。解雇された社員は信号メ

ンテナンスセンターに所属しており、いずれも50歳代だといふ。解雇の理由についてJR東日本は、「会社の事情による」とし、具体的な

飯山線踏切事故

11年2月1日、新潟県津南町のJR飯山線の大根原踏切で、普通列車と車が衝突し、車を運転していた男性が死亡した事故。踏切は故障のため遮断機が下りっぱなしの状態、社員2人が監視していた。事故当時はJR社員2人が手動で遮断機を上げて車を誘導したが、現地は線路の両側に2メートルもの雪の壁があり、見通しが非常に悪かったという。また列車の運行状況を指令員に確認していなかったと指摘がされている。

交流が支えに 家族会が総会

2月25日、国労仙台家族会は、磐梯熱海温泉浅香荘において、定期総会を開催した。

家族会は05年から二瓶氏から会長を引継いだ眞屋氏が、7年間という長期間にわたり家族会の活動を牽引してきた。

総会において、眞屋会長は▼05年から郡山信通分会と仙台闘争団の家族みなさんを中心に活動をしてきたが、定年退職が続いたため、郡山分会連絡協議会に相談し、御夫人の入会促進運動を展開してきた▼その結果、08年には郡山駅連合分会の家族7人から加入があり、現在は同駅分会の家族を中心に家族会の運動を進めている▼また09年



からは、総会には夫達にも参加してもらい、家族的な雰囲気の中での交流になっている。組合活動を理解する良い機会でもあり、会の支えになっている、等の経過を含めたあいさつを述べた。



総会においては、新会長に千葉氏を選出し、新たな家族会運動を展開することとなった。

見切り発車の通達実施

安の声が出されておられ、波紋が広がることは必至だ。今回の事象(踏切事故)を受けて、仙台支社は「運転取扱細部指導集の一部改正について」という連絡文書(仙支総1688号平成23年10月17日)を発し、各現場での説明を実施した。

「指令間協議を経て、更には手順書を作成し、その後に抑止手配とある。時間がかりすぎるのでは」「机上の文書であり、現場の実態とかげ離れているのではないか」など、不明な点について説明を行なった管理者に尋ねたが、明確な返答は得られなかったという。現場では、「これで実施となるのか。また本当に事故は防げるのか」と疑問を抱いており、丁寧な議論と説明が求められている。

「見切り発車」との誹りを免れないという見方が大半である。例えば、追加となった「踏切鳴動持続時の取扱いについて」の具体的な取扱いについては、抑止要請は

異動のお知らせ

エルダー社員として仙台から郡山まで遠距離通勤をしていた郡山駅勤務(ビジネスえきネット)の庄子健一さんが、3月1日付けで、仙山線の東照宮駅に異動しました。

JRが線量計?

駅前に立派な機器



磐城東線の磐城常葉駅前線量計が設置されたという。業務で立ち寄った組合員が地域の方から、「立派な線量計を置いてもらってありがたい」と言われ、「戸惑うやら恥ずかしいや」との報告があった。それはそうであろう。駅前にあれば、「JRが設置した」と思うのが普通だが、しかし残念ながらこれは自治体が設置したものだからだ。JRには「普通の感覚」を大切にしてもらいたいものだ。

情報ピックアップ

東北工事事務所分会「ろばた」より

ろばた906号でご案内の通り、分会は「不当解雇とたたかう日本航空労働者を支える会」に入会し、先日「支える会通信第2号」が送付されてきました。紙面には、元自衛官パイロットの意見陳述の感想や解雇された方の怒りがこめられていました。「支える会」の入会拡大行動・北海道では、元国労稚内闘争団・紋別闘争団・北見闘争団・美幌闘争団・留萌闘争団・旭川闘争団の仲間が協力、北海道の会員拡大の行動では、元国労闘争団の方々が御自分の車で長距離を各労組まわりに時間を費やしていた

だいて本当にお世話になりました。(略) 国労の大きさを実感した活動でした。これと呼んで目頭が熱くなりました。「会」の案内文書には「会員の方には年6回通信を送らせていただきます。初回は郵送させていただきますが、Eメールアドレスをお知らせいただいている方には財政上の観点から、次号以降はメールにて配信させていただきますのでどうぞご了承ください。」と記載されていました。私も「支える会」に入会しEメールとします。そして、分会への会報送付は財政支援から辞退しようと思います。みなさんの了承をお願いします。もう一つ、国労支援への御礼をこめて「支える会」への入会を呼びかけます。(舟涛) 【ろばた No908 12年2月7日】